

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072400561		
法人名	有限会社 まほろば大和		
事業所名	グループホーム 百楽殿		
所在地	和歌山県 西牟婁郡 白浜町 1313番地		
自己評価作成日	H 22年 7月4日	評価結果市町村受理日	平成22年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3072400561&amp;SCD=320">http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3072400561&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成22年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・天然温泉掛け流しの温泉を利用し、機能訓練等を行っています。</li> <li>・買い物に出かけ、地域住民の方々とのおふれあいや、交流に努めています。</li> <li>・体験入居を行い、利用者様に負担無く、安心してもらえるよう考慮しています。</li> <li>・地元の食材(魚、野菜類、家庭菜園での収穫等)を使い、いつも新鮮な物を食べてもらえるよう工夫しています。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>高台にある3階建ての保養所の1階を改装したホーム内には天然温泉があり、入居者がゆったりとした雰囲気の中で自由に暮らせる空間がある。建物の屋上からの展望もよく夏は花火観賞もできる。管理者は地域の方がホームに立ち寄ってくれることを望んでおり、地域の方が集える場所を提供し、入居者と交流できるよう工夫している。2階に併設している民宿の客として訪れた若者たちも入居者と自然に交流している。協力医療機関との連携で、医療面での安心も得られており、重度化、看取りにも対応できるよう取り組んでいる。また、地域住民の緊急ケアの受け皿としての宿泊施設としての機能や、災害時の地域の避難所としても、地域貢献の責務の一端を担っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会の中で、家庭的な環境の中で、自立する為の支援を行い、人と人とのふれあいにより、明るく健やかに、安心して暮らせることを目指しています。	管理者はホームが地域の「いこいの場」でありたいと考えており、家庭的な雰囲気を大切に、地域の人と交流するという理念をついている。理念は玄関ホールに掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の老人会や、婦人会の方々を招いて、お茶会を開いたり、白良浜のイベントに参加しています。近くのスーパーへの日常的な買い物や、喫茶店へモーニングを食べに行ったりしています。	地域のボランティアの協力で月1回、お茶会が開かれ、地区の老人会や婦人会の人が集い、地域との交流が広がっている。入居者が作った交通安全のお守りを最寄りの警察所に届けたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター育成の為の講習会を開いたり、気軽に立ち寄ってもらえるホームづくりを心がけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様や、町会議員の方、民生委員をされていた方々に参加して頂き、貴重な意見や提案を頂き、日々のサービス向上に繋げています。	3～4ヶ月に1回、会議を開催している。地域住民からの参加者が多いのが特徴である。内容は入居者の状況報告や、災害時の協力者についてなど様々である。議事録は、役場と家族にそれぞれ郵送している。	会議は2か月に1回、開催されることを期待したい。また、形式にとらわれず、それぞれの立場での意見を出しやすい場となるよう工夫し、運営に活かしていくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修時に質問させて頂いたり、電話連絡等で交流しています。地域包括センターの方や、社会福祉協議会の方々とも協力しながら取り組んでいます。	ケア会議の際、ホームとしてできることについて意見交換し、入居者のケアについても相談している。地域包括支援センターから「かけこみ寺」的な依頼も増加しており、相互に協力し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の為の自社研修を行い、意見交換を行っています。管理者、計画作成担当者は身体拘束推進委員研修を受けています。今後も定期的に行っていきます。	玄関は夜間以外いつも開け放たれ、入居者が出ようとする、チャイムがなるようにしている。管理者は年2回、身体拘束関係の研修を受けており、その内容を職員に伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを元に虐待防止の意義の研修を行っています。管理者も介護業務を通じそのような事実は無いが、日々確認を行なっています。		

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部、自社研修等で勉強する機会を設け、介護保険法、制度について学んでいます。現在、入居後に成年後見制度を利用されている方もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書、契約書を元に、分かりやすく説明を行っています。不明な点に関してはその都度説明を行い、十分理解して頂ける様努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情受付担当を決め、玄関に掲示し、いつでも話し合いの場を持てるよう体制を整えています。	職員は家族が来所した際、話しかけて家族からの声を聞き、運営に反映させるようにしている。投書箱も設置している。	家族会の設置や、アンケートを実施するなど、苦情や意見を言いにくい家族の立場にも配慮して、直接言いにくい事も表しやすくする機会を設けることが望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員との話し合いの場をいつでも持てるような環境をつくっています。	管理者は職員と家族ぐるみの付き合いをしており、仕事以外の悩み事についても気軽に話し合える関係となっている。職員間のチームワークもよく取れており、管理者と職員が話し合いながら、運営を進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が管理業務を行っているので、実力、能力主義で給料に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じた研修に参加出来るよう計画を立てています。また、外部研修の費用と、出勤扱い等に配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や、グループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っています。		

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居を行い、入居前から信頼関係を築けるよう努力しています。本人の訴えを傾聴し、安心してもらえる環境づくりに励んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や、今までのサービス利用状況等をじっくり聞いて信頼関係を作れるよう相談援助を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の要望を最優先に行っています。要望時には近隣の医療機関への受診介助も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意な事を聞き、日常生活の中で各自出来る事を行ってもらえる環境づくりに取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近状報告を行ったり、日々の暮らしの中での出来事や気付きの情報を共有しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方々が気軽に遊びに来てもらえるよう配慮しています。必要時には送迎も行っています。	職員が入居者の友人のホームへの送迎や、入居者を友人宅へ送迎するなど、これまでの馴染みの関係が崩れないよう細やかな配慮がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係や、力、個性を生かせるよう配慮しています。大家族のような関係づくりを目指しています。		

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方や家族様とも交流を行っています。当社のイベントや行事には積極的に参加してくれています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族様の意向を優先しながら、計画作成に取り組んでいます。	入居者とお茶を飲みながら話しをする中で、その思いを聞き、記録共有のため、認知症の人のケアマネジメントセンター方式を抜粋した独自のアセスメント方式を使用している。	職員ごとの本人のとらえ方の違いにも目を向け、何が必要かを職員間の話し合いで確認していくことが、今後期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族から生活歴の情報を聞いたり、入居前の担当ケアマネージャーさんからの情報等で把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の心身状態の把握に努め、個々の生活リズムを大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討会議、毎月のモニタリングを行い、本人や家族、主治医等と相談しながら計画作りを行っています。	関係者の意見を聞き、環境への適応、健康面・精神面の安定化に重点を置いて計画作成している。使用している記入様式では具体的な記録、共有がやや困難となっており、他の様式への変更を検討している。	現在候補に挙がっている具体的で分かりやすい介護計画書の様式への変更を行い、介護計画に基づいた個別性のあるケアが提供できるよう期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を元に、検討会議、モニタリングを行い、本人や家族、職員でより良い計画作りに取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提供医療機関の往診や、必要時には訪問看護も行ってもらっています。また、自宅での介護が困難になった方や、退院後の一人暮らしが不安な方々に対し、宅老所等での介護などの支援を行っています。(ご家族様への宿泊施設の提供。)		

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方や、警察官の方に訪問をお願いしており、イベント時にはボランティアの方々にも協力をお願いしています。(NPO、ボランティアの方々とは花植えをしたり、野菜作り、お菓子作り、手芸、スーパーへの買い物等交流を深めています)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関で利用者に応じた医療が受けられるよう支援しています。24時間対応してくれる開業医さんがいます。また2週間毎に往診も行ってきています。	医師は、入居者のなじみの医師やホームの協力医から選択する事ができ、職員が受診に同行している。また、協力医が2週間ごとに往診を行って来て、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は看護職員が行っていますが、定期的な往診、受診を行い、入居者の健康状態の相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会回数を多く取り、不安やストレスの軽減を図ったり、頻りに連絡を取り合い、情報交換を行いながら、早期退院のための支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や家族、提携医療機関と話し合い、方針を決めています。状態に応じてご家族と話し合い、ホームでの終末期を希望される方には、主治医と相談しながら、出来る限り安らかな終末期を迎えられるよう支援しています。	協力医とは密な相談支援を受けられるよう連携ができており、医療連携の下で事業所での看取りも可能である。できる限り家族の要望に沿う方針を持ち、適切な時期に個別に話し合うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを元に、定期的に勉強会を行っています。外部での研修にも積極的に参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、災害時には各機関へ通報により協力して頂ける様お願いしています。また、防災訓練を定期的に行い、避難誘導の訓練を行っています。(近隣の方をお願いし、協力者の連絡先を事務所に保管しています)	年2回防災訓練を行い、夜間想定もしている。地盤強固のため、災害時は地域の避難所として50人程度の被災者の受け入れができる。近隣者との協力名簿も作成されており、運営推進会議内で確認がなされている。	

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っています。	プライバシーに配慮した声かけを実践しており、特にトイレ誘導や失敗時の対応ではプライドを傷つけない声かけが個別に行われている。また、職員間でも気付いた点は話し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自分で決める事を多く取り入れ支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら、声かけを行い、本人の希望を引き出せるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットや毛染め等、本人の意見を尊重し行ってもらっています。美容室へ行けない方には出張理容をしてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方々に嗜好を聞いてメニュー作りを行っています。後片付け等も出来る方に行ってもらうようにしています。職員も同じものを食べています。外食も行っています。	座って食事を待つ人が多いが、出来るだけ職員が声かけし、一緒に下ごしらえ・配膳・下膳・洗い物が出来る人には手伝ってもらうようにしている。入居者の声を聞く中で、メニューを考えたり、外出の機会が生まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を考える時に出来るだけ偏らない食事作りを心がけています。また、栄養のバランスや、カロリーも考慮し、質、量を決めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行い、出来ない方には職員が介助しています。義歯の方は消毒を行っています。		

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をこまめに行っています。	排泄パターン表を作成し、個別の排泄・排尿周期を職員は把握しており、トイレ誘導するよう心がけている。日々の会議でも職員間の意識の統一を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取り入れるように工夫し、十分な水分摂取を行っています。健康体操や、散歩を行い、運動しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	随時声かけを行い、自分のペースで入浴できるよう支援しています。希望されれば毎日でも入浴出来ます。	個浴槽と温泉の2か所があり、好みで選ぶことができるが、温泉を利用する人がほとんどである。入浴は毎日、10:00～17:00の間で可能だが、冬場は19:00まで入浴時間を延長している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人が不安な方や寂しいと言う方には、仲の良い方と一緒に居室で過ごしてもらったり、眠れない時には食堂で過ごしてもらったり、お茶を飲んでもらったり、リラックス出来るよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容をいつでも閲覧出来るように内服管理ファイルを作っています。変更時は申し送りを行い、誤薬の無いよう勤め、変更後の様子観察等医師、看護師の指導の下常に注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症が進行し、個々の役割は困難な状態ですが、出来る事は自分でしてもらえよう支援しています。気分転換に外食や喫茶店へ行ったり、買い物に出かけたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物は日常的に行っています。歩行が困難な方も車椅子での外出を支援しています。寝たきりの方でも、主治医と相談しながら、自宅へ帰れるよう支援しています。	近くの店への買い物や散歩は日常的に行っており、月2・3回は、歩いて近くの喫茶店にモーニングを食べに行ったりもする。入居者個々の希望にあわせてドライブも行っている。年2・3回は皆で回転寿司へ出かけている。	

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額ですが、自分で御小遣いの管理をしてもらっています。買い物時にも自分で支払い出来る様支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員は無理ですが、電話で話しをしたり、葉書や手紙のやり取りが出来る様支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生け花や、ガーデニングで季節感を味わってもらっています。季節に応じた換気を行い、出来るだけ自然の風にふれてもらえる様工夫しています。	玄関を入ったところにソファが設置され、入居者が自由にくつろげるゆったりした空間となっている。食堂と広い庭の境は解放され、季節の花が美しい。畳のスペースも作られていてくつろげる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でも一人ひとり自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ本人の使いやすいように工夫しています。	窓が大きく、光がよく入る部屋が多い。家から使い慣れた家具・ベッドなどを持ち込んでおり、一人になりたいときに過ごせる憩いの場所としての部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護度が重くなっているため、なかなか上手く行きませんが、本人の状態を把握し、馴染みの物を使いながら個々に工夫を行っています。		